



川崎モデル深掘り調査報告書

要約

本調査では、添付された資料の分析と広範囲なウェブサイト調査を通じて、「川崎モデル」と呼ばれる中小企業伴走支援の全貌を明らかにした。川崎モデルは2005年に始まった現場主義に基づく企業支援モデルで、年間500社以上の企業を訪問する「出張キャラバン隊」と大企業の開放特許を中小企業に移転する知的財産マッチング支援を核とする。中小企業庁の「経営力再構築伴走支援ガイドライン」にも影響を与え、全国の支援機関の参考モデルとなっている。栃木県・宇都宮市の支援策との比較では、川崎モデルの徹底した現場主義と継続的な企業訪問が特徴的な差別化要因として確認された。

川崎モデルの概要と歴史的背景

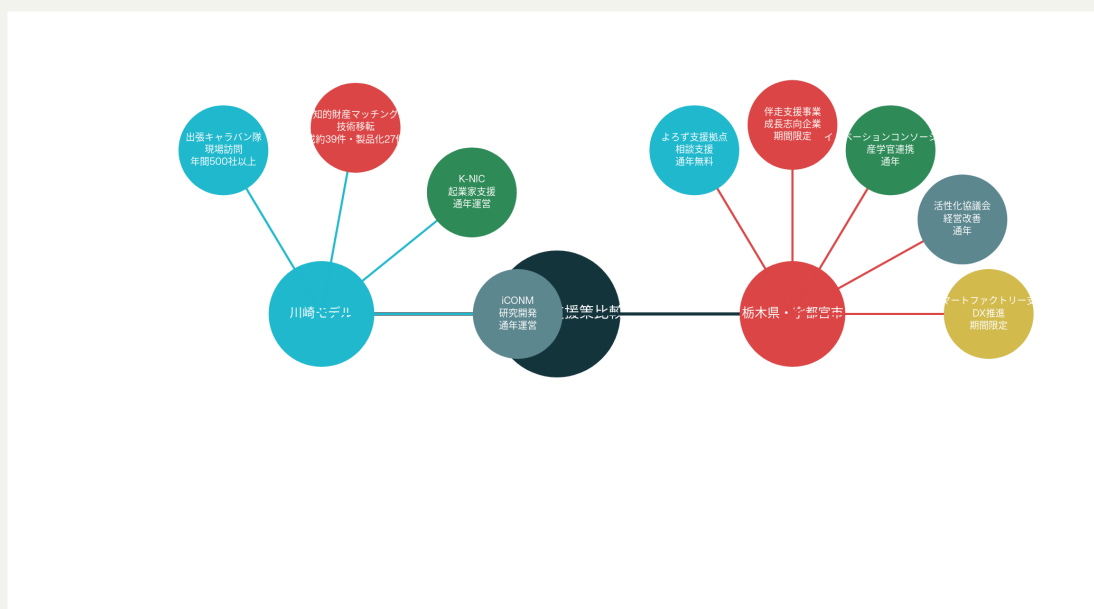
「川崎モデル」は、神奈川県川崎市が展開する中小企業伴走支援の総称である。このモデルの核心は、企業訪問を通じて「経営者の心に寄り添い、課題を理解し、個社に合った支援を行う」伴走支援のあり方にある。^[1] ^[2]

歴史的経緯

川崎モデルの起源は、1980年代の産業構造転換期に遡る。川崎市は我が国を代表する重工業都市として発展してきたが、工場の海外移転など大幅な産業構造の変化に直面した。この状況を受け、当時の川崎市職員が現場の実態を把握するため、中小企業経営者との面談を重ねる「現場主義」を実践したことが始まりである。^[2] ^[3]

2005年に本格的に開始された「出張キャラバン隊」は、川崎市や川崎市産業振興財団の職員を中心に、コーディネータや専門家、金融機関なども巻き込んだチーム制による企業支援である。20年にわたる活動により、川崎市には特色のある企業が多数存在することが判明し、年間延べ500社以上を訪問する体制が確立された。^[4] ^[3] ^[2]

中小企業支援策比較マインドマップ



川崎モデルと栃木県・宇都宮市の中小企業支援策比較分析

主要構成要素

川崎モデルの支援体制は、以下の主要構成要素から成り立っている：

1. 出張キャラバン隊

4～5人1チームで活動し、一人では対応できない案件も個々の専門性で補い、即時に問題対応する体制を構築している。企業の経営者や技術に関する悩みを聞き出し、その解決策や新たな取り組みを支援する伴走支援そのものの実行組織である。^{[2] [5]}

2. 知的財産マッチング支援

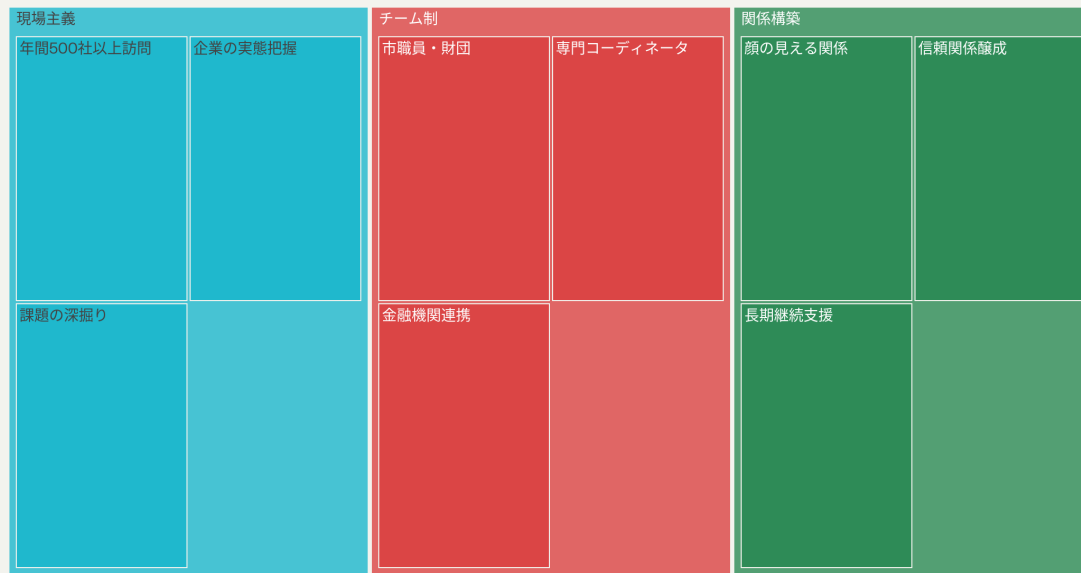
大企業が所有する開放特許を中小企業に移転・製品化するマッチング支援で、川崎モデルの代表的な成功事例として知られる。2025年3月現在で成約39件、製品化27件の実績を上げている。^{[3] [6]}

3. イノベーション支援拠点群

- **K-NIC (Kawasaki-NEDO Innovation Center)**：NEDOとの連携による起業家支援拠点^{[7] [8]}
- **KBIC (Kawasaki Business Incubation Center)**：キングスカイフロント拠点^{[8] [7]}
- **iCONM (Innovation Center of NanoMedicine)**：ナノ医療イノベーションセンター^{[7] [8]}

川崎モデル成功要因

川崎モデル成功要因



川崎モデルの成功要因分析 - 階層構造図

川崎モデルの成功要因

川崎モデルの成功要因は、複数の研究で分析されており、以下の要素が特に重要とされている：^[3]^[9]

現場主義の徹底

川崎モデルの最大の特徴は、徹底した現場主義である。市職員が実際に中小企業を訪問し、経営者と対話することで、企業の実情や課題を深く理解する。この現場主義により、「顔の見える関係」を構築し、単なる支援制度の紹介ではなく、企業の本質的な課題に寄り添った支援を実現している。^[2]^[4]^[3]

チーム制による補完関係

出張キャラバン隊は、川崎市職員だけでなく、技術や契約、大企業等に詳しいコーディネータ、金融面で支援する金融機関がチームとなって対応するため、中小企業のニーズにワンストップで対応できる。このチーム制により、個々の専門性を活かしながら、企業の多様な課題に即座に対応する体制が構築されている。^[5]^[3]

信頼関係の構築と継続性

川崎モデルは、バブル経済崩壊後の地域経済の大きな揺らぎの中で生まれ、30年近くの長い時間をかけて顔の見える関係を築き上げてきた。この長期継続的な関係構築により、企業との深い信頼関係が醸成され、本質的な課題への取り組みが可能となっている。^[10]^[9]

中小企業庁の経営力再構築伴走支援ガイドラインとの関係

中小企業庁は2023年6月に「経営力再構築伴走支援ガイドライン」を策定し、川崎モデルの手法を全国に普及・展開する取り組みを開始した。^{[11] [12]}

ガイドラインの目的と内容

このガイドラインは、経営者・企業の自己変革、自走化による成長を目指す「経営力再構築伴走支援」の基本理念を解説し、具体的な支援の進め方や留意点等について実際の支援事例や効果的なノウハウを織り交ぜてまとめたものである。^[11]

ガイドラインでは、従来の「課題解決型」支援に対し、「課題設定」の段階からの支援を重視している。官民の合同チームが経営者と対話し、傾聴することで、経営者が本質的な課題に気づき、自社内の自主的なアクションにつなげていくアプローチが推奨されている。^[13]

川崎モデルとの整合性

ガイドラインで示される伴走支援の手法は、川崎モデルが長年実践してきた「現場主義」「対話と傾聴」「関係機関との連携」といった要素と高い整合性を持つ。特に、支援者が現場に足を運び、事業者との信頼関係を構築しながら本質的な課題を見極める手法は、川崎モデルの核心的要素と一致している。

川崎モデルの他自治体への展開事例

川崎モデルは全国の自治体から注目を集め、多くの視察や連携が行われている。^{[4] [3]}

展開の現状

川崎市には全国各地から視察依頼が相次いでおり、他の自治体や支援機関の参考とされている。特に知的財産マッチングの手法は「川崎モデル」として他の自治体でも導入が検討されている。^{[14] [15]}

また、川崎市は他地域の企業や支援機関との連携を積極的に進めており、全国各地を訪問してネットワークを広げる活動も行っている。これにより、川崎市の中小企業支援のブランディングが向上し、より多くの人や情報が集まる好循環が生まれている。^[4]

展開における課題

一方で、川崎モデルの他地域への展開においては「想いの伝承」が大きな課題として指摘されている。川崎モデル創設時からの担当者は、単なる制度やシステムの移転ではなく、現場主義や企業に寄り添う姿勢といった本質的な「想い」の継承が最も重要であると強調している。^[16]

栃木県・宇都宮市の中小企業支援策

栃木県の取り組み

栃木県では、以下の中小企業支援策を展開している：

1. 栃木県よろず支援拠点

中小企業・小規模事業者の無料相談窓口として、中小企業診断士をはじめ、弁護士、税理士、社労士

等の専門家が窓口相談に対応している。特に「成長志向企業への伴走支援事業」では、成長を志向する企業に対してじっくりと時間をかけて対話を重ね、企業の将来像や成長ビジョンについて共有を行い、支援計画書を作成する伴走支援を実施している。^{[17] [18]}

2. 栃木県中小企業活性化協議会

中小企業の収益力改善・事業再生・再チャレンジを一元的に支援する体制として設置されており、「中小企業の駆け込み寺」として幅広く中小企業者の相談に対応している。経営改善計画策定費用補助事業では、伴走支援費用も補助対象とし、継続的な支援を促進している。^{[19] [20]}

3. スマートファクトリー伴走支援事業

AI等未来技術（AI・IoT・ロボット）等に関し知見を有する専門家による伴走支援を行うことで、県内ものづくり中小企業のスマートファクトリー化を推進している。^[21]

宇都宮市の取り組み

1. 宇都宮イノベーションコンソーシアム

宇都宮市経済の持続的な発展に向け、新たな産業や雇用を生み出すための市内企業等によるイノベーション創出を目的として設立された。大学、金融機関、産業支援機関、民間企業、行政が連携し、創業から成長まで切れ目のない支援体制を構築している。^{[22] [23]}

2. 宇都宮アクセラレータープログラム

地域企業の課題解決とスタートアップの成長支援を両立させる取り組みで、スタートアップ実証実験サポートプログラムと資金調達支援プログラムの2つの取り組みを実施している。^[23]

3. 各種補助金・融資制度

高度化設備設置補助金、ICT利活用促進助成制度、特許等取得促進助成制度など、多様な補助金制度を用意している。また、中小企業者向け融資制度として、セーフティネット保証や原油価格・物価高騰対策特別資金等を設けている。^[24]

川崎モデルと宇都宮市・栃木県の支援策比較分析

アプローチの相違点

現場訪問の頻度と規模

川崎モデルでは年間延べ500社以上という圧倒的な企業訪問数を実現している。これに対し、栃木県・宇都宮市の支援策は相談窓口での対応や申請ベースの支援が中心となっており、プッシュ型の現場訪問は限定的である。^[2]

支援の継続性

川崎モデルは20年以上にわたる長期継続的な企業との関係構築を特徴とする。一方、栃木県・宇都宮市の伴走支援は期間限定（1～2年程度）の集中支援が主流である。^{[17] [2]}

専門性とチーム制

川崎モデルでは市職員、専門コーディネータ、金融機関が一体となったチーム制による支援を実現している。栃木県・宇都宮市では専門分野別の支援機関が存在するが、ワンストップでのチーム対応は限定的である。^[3]

共通点と連携の可能性

現場主義の重視

両地域とも現場に出向いた支援を重視しており、企業との直接対話による課題把握を基本としている点で共通している。^{[17] [18]}

産学官金連携

川崎モデルの大学・金融機関との連携と、宇都宮イノベーションコンソーシアムの産学官金連携は類似のアプローチである。^[22]

伴走支援の重視

中小企業庁のガイドラインの影響もあり、両地域とも単発の支援から継続的な伴走支援への転換を図っている。^{[13] [17]}

川崎モデルの普適的成功要因と他地域展開における課題

普適的成功要因

1. 経営者への寄り添い

川崎モデルの本質は、「経営者の心に寄り添い、課題を理解し、個社に合った支援を行う」姿勢にある。この姿勢は地域や業種を問わず有効な支援の基本原則である。^[2]

2. 現場主義の徹底

企業の現場に足を運び、実際の状況を把握することで、机上の理論では見えない課題や強みを発見できる。この現場主義は地域の特性に関わらず実践可能な手法である。^{[4] [2]}

3. 信頼関係の構築

長期継続的な関係構築により、企業との深い信頼関係を築くことで、本質的な課題への取り組みが可能となる。この関係構築のプロセスは他地域でも応用可能である。^[3]

4. チーム制による補完

異なる専門性を持つ支援者がチームを組むことで、企業の多様な課題にワンストップで対応できる体制の有効性は普適的である。^[3]

他地域展開における課題

1. 想いの伝承

川崎モデルの担当者が最も重視するのは、制度やシステムではなく「想い」の伝承である。現場主義や企業に寄り添う姿勢といった本質的な価値観を他地域の支援者に継承することが最大の課題となっている。^[16]

2. 人材の確保と育成

川崎モデルでは長年の経験を持つコーディネータや職員が核となっているが、他地域では同様の人材の確保と育成が困難である。特に技術的な見立てができる人材の不足は深刻な問題となっている。^{[2] [10]}

3. 地域特性への適応

川崎市は大企業の研究所が多数立地し、東京からも近い地理的優位性を持つ。他地域では産業構造や

地理的条件が異なるため、川崎モデルをそのまま適用することは困難であり、地域特性に応じたカスタマイズが必要である。^[2]

4. 持続的な予算確保

川崎モデルの運営には相当の人的・予算的リソースが必要であるが、他地域では継続的な予算確保が課題となる場合が多い。

結論と提言

川崎モデルは、20年以上にわたる現場主義の実践により構築された、中小企業伴走支援の優れたモデルである。その成功の神髄は、「経営者の心に寄り添い、課題を理解し、個社に合った支援を行う」という基本姿勢と、現場主義、チーム制、長期継続的な関係構築にある。

中小企業庁の経営力再構築伴走支援ガイドラインは、川崎モデルの手法を全国に普及させる重要な取り組みであり、栃木県・宇都宮市でも類似の伴走支援の取り組みが展開されている。ただし、川崎モデルの徹底した現場主義（年間500社以上の企業訪問）と長期継続的な関係構築は他地域では十分に実現されていない。

他地域での川崎モデル展開において最も重要なのは、制度やシステムの模倣ではなく、現場主義と企業に寄り添う「想い」の伝承である。地域の産業特性や資源制約に応じてモデルをカスタマイズしながら、川崎モデルの本質的な価値観を継承することが、持続可能な中小企業支援体制の構築につながると考えられる。

特に宇都宮市・栃木県においては、既存の支援体制を活かしながら、より積極的な現場訪問と継続的な企業との関係構築を強化することで、川崎モデルの成功要因を取り入れた独自の伴走支援モデルの構築が可能であろう。



1. 202510_6.pdf
2. https://shokosoken.or.jp/shokokinyuu/2025/10/202510_6.pdf
3. <https://jasbs.jp/pdf/39-10nakamura.pdf>
4. <https://kanto-meti.gov.note.jp/n/ned49e92fdaa5>
5. <https://jichitai.works/article/details/272>
6. <https://www.tokkyo.ai/tokkyo-wiki/kawasaki-model-ip/>
7. <https://www.kawasaki-net.ne.jp/wp-content/uploads/2024/07/027b793fa3c76c01e9a26017d4668ca4.pdf>
8. <https://www.kawasaki-net.ne.jp/wp-content/uploads/2020/07/ed07a3a30603700af284b9e5488adac9.pdf>
9. https://www.jstage.jst.go.jp/article/jmda/23/0/23_14/_article/-char/ja
10. <http://www.senshu-u.ac.jp/~off1009/PDF/geppo2020/685/685-ito.pdf>
11. https://www.chusho.meti.go.jp/koukai/kenkyukai/keiei_bansou/guideline.html
12. https://www.chusho.meti.go.jp/koukai/kenkyukai/keiei_bansou/003/002.pdf
13. <https://journal.meti.go.jp/p/23839/>
14. <https://jpaa-patent.info/patent/viewPdf/2816>

15. <https://news.aperza.jp/中小企業が開放特許を活用する仕組み-「川崎モデル」>
16. https://shokosoken.or.jp/shokokinyuu/2025/10/202510_all_2.pdf
17. <https://tochigi-yorozu.go.jp/bansou/>
18. <https://tochigi-yorozu.go.jp>
19. <https://www.cgc-tochigi.or.jp/management/management-improvement>
20. <https://www.city.utsunomiya.lg.jp/sangyo/sangyo/chushokigyo/1017977.html>
21. https://www.pref.tochigi.lg.jp/f02/r7_sumartfactory/semibosyuu-kouhou.html
22. <https://www.city.utsunomiya.lg.jp/sangyo/sangyo/1035005/1029495.html>
23. <https://www.forstartups.com/news/utsunomiya-acceleratorprogram-202507>
24. <https://www.city.utsunomiya.lg.jp/sangyo/sangyo/chushokigyo/index.html>
25. <https://www.city.kawasaki.jp/280/page/0000176054.html>
26. <https://www.kawasaki-net.ne.jp/hanro.html>
27. <https://www.k-nic.jp/magazine/8625/>
28. https://www.ipaj.org/bulletin/pdfs/JIPAJ12-3PDF/12-3_p050-060.pdf
29. <https://www.aotori-y.jp/kawasaki-south-syuro/wp-content/uploads/sites/11/2023/12/中小企業事業主のみなさまへ.pdf>
30. <https://www.city.kawasaki.jp/280/page/0000178938.html>
31. <https://www.kawasaki-net.ne.jp/wp-content/uploads/2025/04/R7-bp.pdf>
32. <https://www.city.kawasaki.jp/280/cmsfiles/contents/0000151/151253/bansou.pdf>
33. <https://www.kawasaki-net.ne.jp/wp-content/uploads/2023/08/b6be0cf56dd3c7425400bd857cc16997-1.pdf>
34. https://www.jstage.jst.go.jp/article/ckg/22/0/22_21_article/-char/ja/
35. <https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/news20201120.html>
36. <https://www.kawasaki-net.ne.jp/wp-content/uploads/2020/11/8f1d7ee87e89d92ad9e335f35ddbc18f.pdf>
37. <https://www.k-nic.jp/partner/>
38. <https://www.smrj.go.jp/sme/consulting/hands-on/fbrion0000004i8q-att/guideline.pdf>
39. <https://www.city.utsunomiya.lg.jp/sangyo/sangyo/chushokigyo/1018917.html>
40. https://www.chusho.meti.go.jp/koukai/kenkyukai/keiei_bansou/guideline002.html
41. <https://www.mirasapo.jp/subsidy/tochigi/36?page=4>
42. <https://www.city.kawasaki.jp/250/cmsfiles/contents/0000064/64485/2siryou4.pdf>
43. <https://www.pref.tochigi.lg.jp/f03/index.html>
44. <https://jicpa.or.jp/business/sme/information/2025/20250214cbi.html>
45. <https://www.jilc.or.jp/files/libs/3151/202403141644027636.pdf>
46. <https://utsunomiya-shokokai.com/pages/91/>
47. https://www.chusho.meti.go.jp/koukai/kenkyukai/keiei_bansou/guideline/002/001.pdf
48. <http://www.tck.or.jp>
49. https://lfb.mof.go.jp/kantou/content/20231207_shiryo_utsunomiya.pdf
50. <https://www.holg.jp/holg/award2018-006/>

51. https://www.chusho.meti.go.jp/koukai/kenkyukai/keiei_bansou/guideline.pdf
52. https://www.cgc-tochigi.or.jp/system/system_56
53. https://www.tkc.jp/media_library/fx/pdf/mis_news/202112_01.pdf
54. <https://www.tochigi-kasseika.go.jp>
55. <https://ab.jcci.or.jp/article/109663/>
56. <https://kyoudou.net/service-07>
57. <https://leaders-lounge.achievement.co.jp/archives/5564>
58. https://shokosoken.or.jp/shokokinyuu/2022/12/202212_6.pdf
59. https://www.pref.tochigi.lg.jp/f02/work/shoukougyou/sesaku/monodukuri_shienshitsu.html
60. <https://utsunomiyaopeninnovation.com>
61. <https://www.smrj.go.jp/supporter/revitalization/improvement.html>
62. https://www.pref.tochigi.lg.jp/f03/r6_8_startup_kyogikai.html
63. <https://iri.pref.tochigi.lg.jp/index.php?id=2213>
64. <https://www.youtube.com/@宇都宮イノベーションコンソーシアム>
65. <http://tochigi-saiseishien.jp>
66. https://www.city.utsunomiya.lg.jp/_res/projects/default_project/page/001/025/444/r6.02.09_iinhaiu1.pdf
67. [https://tochigi-yorozu.go.jp/hojokin/](https://www.u-cci.or.jp/企業の新規事業開発を支援する「宇都宮オープン/68. <a href=)
69. <https://www.cgc-tochigi.or.jp/data/wp-content/uploads/keieikaizenhiyou.pdf>
70. <https://www.cgc-tochigi.or.jp/networksupport>
71. https://region.alphadrive.co.jp/news/utsunomiyainnovationday2025_report
72. <https://www.pref.tochigi.lg.jp/f03/work/shoukougyou/yuushi/1256894096206.html>
73. https://www.city.kawasaki.jp/170/cmsfiles/contents/0000075/75978/01_02.pdf
74. <https://www.j-n.co.jp/books/978-4-408-11047-9/>
75. <https://unistyleinc.com/techniques/685>
76. [https://www.city.kawasaki.jp/980/cmsfiles/contents/0000175/175697/0821-1\(3\)1.pdf](https://www.city.kawasaki.jp/980/cmsfiles/contents/0000175/175697/0821-1(3)1.pdf)
77. <https://www.j-n.co.jp/columns/220/>
78. https://www.khi.co.jp/history/pdf/125history_06.pdf
79. <https://chukyo-u.repo.nii.ac.jp/record/2000213/files/107020150004ota-chukyo-u.pdf>
80. <https://www.city.kawasaki.jp/170/cmsfiles/contents/0000010/10169/10-1.pdf>
81. https://www.chiiki-kassei.com/img/files/2025_vol.22.pdf
82. https://www.kawasaki-cci.or.jp/wp-content/uploads/2025/03/kaigisho202503_merged.pdf
83. https://www.city.kawasaki.jp/170/cmsfiles/contents/0000061/61710/zentaikai4_07_ikenmatome.pdf